

芸術工学部デザイン基盤センター工作工場の施設紹介と業務内容

芸術工学部デザイン基盤センター 工作工房
技術専門職員 笠原和治

1 工作工場の施設について

R C 構造 3 階建て。

1 階 半地下にあり、半屋外で木材の大判の加工が行えるパネルソーと鉄板の大判加工が行えるシャーリングを備えている大型作業場、電気溶接機やガス溶接器手動プレス機がある特殊加工室、木工作業をメインとする総合作業室（同室に、フライスや旋盤など金属加工設備を備えています）があります。

2 階 アセチレン溶接器を 2 6 本たてているガス溶接室、木工ろくろや木工旋盤、プラスチックの真空成型機などがある作業室があります。

3 階 金庫式温風乾燥炉のある乾燥室、局所排風機を備えた塗装室、デッサンや基礎的な造形教育がおこなわれる造形教室があります。

2 技術支援係について

各種設計実習授業の補助、使用機器の準備や材料の予備加工、卒業研究のモデル制作や実験器具制作の補助、その他コンペや自主制作の制作補助を行っています。また、加工時の安全確保のために加工治具の制作や環境、機器の整備などを行っています。

安全対策としては教職員や学生が使用する工作機械などを危険度に応じて 4 色（赤、橙、黄、青）に色分けし、それぞれの機械の操作部または電源スイッチの所にカラーシールを貼っています。使用に関しては経験や技術の習熟が必要とされるものもあり、事前に担当教員または工作工房職員と作業内容を打ち合わせた上で、許可、立会い、指導のもとに使用することとしています。

また、実技講義の前に安全講習会の時間を作ってもらい、パワーポイントでの説明と現場での実際の機械を使っての使用方法和安全に関する説明を行っています。